

【資料4】 障害(がい)福祉基金活用検討会 課題整理表(グルーピング全体図)

大項目	中項目	課題
1. 施設・環境整備	1.1 レスパイト・短期入所	1 医療的ケアのいる人の短期入所が足りない。(重度心身障害(がい)を含む)
		2 土日の短期入所の空きが少なく調整が難しい。
		3 障害(がい)の種別を問わず、誰でもが利用できて、ショートステイや居場所、福祉避難所になる場所。
	1.2 避難所・バリアフリー	4 医療的ケアのいる人にとっては避難所に不安がある。(重度心身障害(がい)を含む)
		5 避難所がバリアフリー化されていない。
	1.3 施設の整備	6 障害(がい)者が優先的に使用できる会議室が一つしかない。
		7 障害(がい)者スポーツの施設がない。
	1.4 地域移行・居場所	8 病院や施設から地域へ移行するための中間施設がない。
		9 余暇の過ごし方への支援や過ごす場所の確保が不十分である。
		10 高齢障害(がい)者の居場所(就労等)や、18歳以降の夕方の居場所がない。
		11 身体障害(がい)者の居場所探しに困る。
		12 不登校児の居場所
2. 支援体制の強化	2.1 人材育成・確保	13 人材育成に苦慮している。相談員を育てるには3年から5年の時間を要する。
		14 相談支援専門員の質が担保されていない。
		15 相談支援専門員が不足しており、すぐに契約できない。
		16 スキマバイトなど柔軟な働き方を検討する必要がある。
		17 委託相談支援事業所が2人だと負担が大きい。
	2.2 連携・支援体制の強化	18 定期的なケース会議が実施されていない。
		19 ピアサポートの体制が不十分である。
3. 事業運営	3.1 サービス提供	22 就労移行支援、移動支援、日中一時支援が不足していると感じる。
		23 就労選択支援を形骸化させないために、制度理念に基づいた就労アセスメントが出来る場所等について補助というか、委託でもいいので行えないだろうか。
	3.2 施設・事業所の運営	24 事業所を開設するにあたり、初期費用の確保や物件探しに苦慮している。
		25 事業運営の効率を図るためにICT化を進めたいが費用がかかる。
		26 老朽化している施設の修繕ができていない。
		27 軽度の人へのサービスを提供すると赤字になってしまう。
		28 従業員に資格取得を促したいが、費用が高額であるため困る。
		29 障害(がい)理解についての啓発事業の予算が確保されていない。
4. 啓発・地域連携・共生社会	4.1 障害(がい)理解・啓発	30 地域住民や若者に対して、福祉の仕事や事業所を知ってもらう機会がない。
		31 合理的配慮が企業にも義務化となったが、企業の取組が見えにくい。
	4.2 地域資源との連携・障害者差別解消	32 障害(がい)福祉サービスにつながっていない人への対策が不十分である。
		33 訪問診療や往診の実施方法が確立されていない。
		34 精神障害(がい)者の方の住まい探しに困る。
		35 家が見つからない。
		36 親亡きあと不安が解消されていない。
5. 直接支援・給付	5.1 経済的支援	37 低所得者への施策が不十分である。(現金給付が必要)
	5.2 外出機会の減少	38 精神障害(がい)者に対するバス料金の半額助成が実現していない。
6. データ分析・施策評価	6.1 地域資源の分析	39 社会資源が少なく、相談員としてサービス調整が困難である。
		40 障害(がい)福祉サービスにおける宝塚市の強み・弱みがわかりにくい。